



キュウリ 追肥・水やりで長期収穫

キュウリは食感と新

鮮さが本命。家庭菜園
なら実が少し小さくても
大きくなっても楽しめます。

生育適温は日中22〜28
度、夜間17、18度です。根は

浅く張るため乾燥に弱いので、水持ち
が良く、有機物の多い畑が適します。



タネ)は、暑さ寒さに強く安定して長
期間収穫でき、うどんこ病やべと病に
強いです。

【苗作り】

植え付け時期から逆算しておよそ30
日前に、加温された9cmポリポットに
3粒ずつ種まきします(図1)。発芽し
たら30度以上にならないように換気し、
本葉1本の頃に間引いて1本立ちにし、
本葉4、5枚まで育苗します。加温育苗
しないときは、5月上旬から中旬ごろ
が種まき時期です。購入苗はつる割れ
病に強い接ぎ木苗を選びましょう。

【畑の準備】

植え付け2週間前までに1平方m
当たり苦土石灰200gをまき、土と
混ぜておきます。次に、1週間前に化
成肥料(NPK各成分10%)200g、

堆肥2、3kgを予定した畝幅に散布し、
よく耕しておきます(図2)。土壌水分
が適度るときにマルチを張り、地温を
上げておきます。

【植え付け】

中間地では遅霜の心配がない5月
上旬から中旬、トンネル栽培の場合は
4月中旬から下旬ごろが植え付け時
期です。栽植方法は、2条植えでは畝
幅120cm程度、条間80〜90cm、株間
60〜70cmにします(図3)。

【誘引・摘心】

植え付け時は仮支柱を立て、ひもで
緩く縛ります。次に、つるが伸びだす
前に支柱を用意し、合掌式に支柱を組
みます。そして、支柱にキュウリネッ
トを張り、つるをネットに誘引します
(図4)。親づる(主枝)の下から5、6

葉までの子づると雌花は、全て早めに
摘み取ります。その後の子づる、孫づ
るは2葉を残して摘心し、親づるは支
柱の高さで摘心します(図5)。

【摘葉・摘果】

黄化した下葉や病気の葉は随時摘葉
し、曲がり果などの変形果は小さいう
ちに摘果して、株の負担を軽くします。

【追肥・水やり】

肥切れさせないように、収穫終了前
まで2週間ごとに追肥を続けます。1
回目は果実が取れる頃に株の周りに施
し、軽く土と混合します。2回目以降は

1平方m当たり化成肥料30g程度を畝
の肩に浅く溝を作って施し、薄く土を
かけます。キュウリは特に水分が必要で、
畑が乾いていたら必ず水やりをします。
【病害虫防除】
べと病やうどんこ病は、登録農薬で
防除します。アブラムシは、粘着くん
液剤などを散布します。

【収穫】

長さ21、22cm、重さ100〜120g
くらいが収穫適期ですが、小さくても
モロキュウとして楽しめます。最盛期
は朝夕2回の収穫を心がけ、また草
勢が弱ったときには若取りして株の負
担を減らし回復を早めましょう。

図1 加温育苗

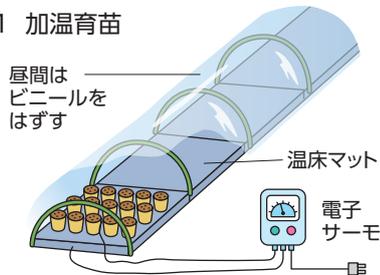


図2 畑の準備



図3 植え付け

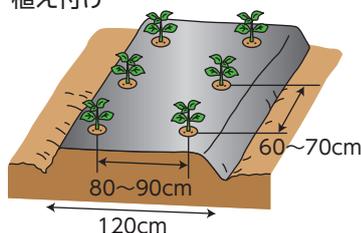


図4 支柱立て

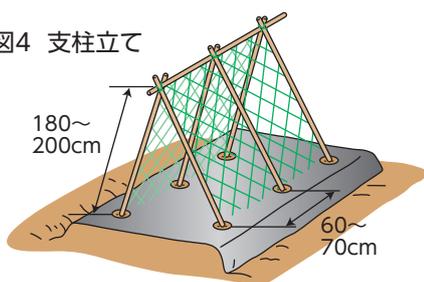
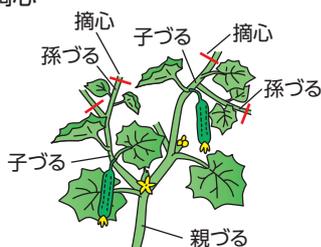


図5 摘心



子づる、孫づるとも本葉2枚を残し摘心